



# 県内ふるさと納税苦戦

## 107億円 4年連続過去最多でも

## 九州では最下位

### 22年度

大分県内のふるさと納税が苦戦している。2022年度に県と18市町村に寄せられた額は計107億2193万円。4年連続で過去最多を更新したものの都道府県別では28位、九州・沖縄では最下位にとどまる。地域間競争が激化する中、県内の自治体は新型コロナウイルス禍からの回復を見越した体験型商品など返礼品の充実を力を入れ、納税者にアピールする。

総務省によると、22年度の全国1位は北海道で、2～5位は福岡、宮崎、鹿児島、佐賀の各県が続いた。市町村別のトップは宮崎県都城市で約19.5億円。この他、佐賀県上峰町、福岡

の、全国順位は23位から徐々に低下した。県内トップは国東市の21億2677万円。8年連続で使った加工品が人気だった。ただ、「力を入れ始めた

自治体名	金額(円)	増減額(円)
大分市	9億8446万	893万
大分市	8億4811万	1億8万
津田市	2億4941万	5194万
津田市	4億1917万	▲4527万
津田市	8億9621万	2億2799万
津田市	6億5949万	6853万
津田市	1億557万	▲6431万
津田市	4億3524万	▲1億433万
津田市	4億2880万	▲1927万
津田市	9億2336万	9893万
津田市	6億823万	1億3536万
津田市	1億8534万	▲4311万
津田市	5億5846万	3億3345万
津田市	21億267万	4119万
津田市	981万	336万
津田市	8億6201万	6902万
津田市	2億286万	9950万
津田市	2億1094万	8367万
津田市	2629万	1720万
計	107億2193万	10億6290万

※1万円未満は切り捨て、▲はマイナス。増減は21年度と比較

1 北海道	1452億8967万円
2 福岡	550億8927万円
3 宮崎	466億4440万円
4 鹿児島	424億6435万円
5 佐賀	416億4278万円
11 熊本	287億7306万円
27 長崎	160億2854万円
22 沖縄	123億3133万円
28 大分	107億2193万円

※総務省の資料を基に作成。1万円未満は切り捨て。白抜き数字は全国順位

九州は多くの県が上位に名を連ねる



（上から時計回りに）返礼品の国東市のウインナー、大分市の吉野の鶏めし、由布市の宿泊補助券

県外自治体があり、伸びが鈍化している。「市活力創生課と危機感を募らせる。おおい豊後牛のヒルス、テークが人気の竹田市は、約2割減の4億3524万円だった。市総合政策課は「返礼品の開発に取り組んできたが、広報が足りなかったかもしれない」と明かす。一方で伸び率が県内トッ

プだった由布市は3億3345万円増の5億5846万円を集めた。市財源改革推進課は「返礼品数の増加▽ポータルサイトの磨き上げ▽旅行関係商品を新たな宿泊予約サイトに掲載」を要因に挙げた。寄付金は独自の施策に使えるため、各自治体の重要な財源になっている。県市町村振興課は「九州は他地域と比べ、全体的に受け入れ額が多い。納税者には選ばれる自治体は身近にあるので、大分県も好事例を参考にしながら底上げを図る」と語った。（見屋野香純）

ふるさと納税 都市部に集まりがちな財源を地方に移す狙いで、2008年に始まった。応援したい自治体を選んで寄付すると、住民税などが軽減される。返礼品は地場産品などで寄付額の3割以内と規定されている。

〔問①〕 寄付額の大分県内トップの市町村はどこ？ 22年度の金額と増減額は？

国東市 21億267万円 プラス4119万円

〔問②〕 都道府県順位で低迷する大分県。挽回策を考えよう。

自由記述

〔問③〕 あなたの市町村の返礼品を調べ、ふるさと納税受入額アップを図るための改善点や、追加した方がいい返礼品を考えよう。

自由記述